



普及活動の紹介

- 細切サイレージの品質改善（猿払村・浜頓別町5 TMRセンター）
- 施設整備による飼養環境の改善（豊富町 目梨別地域）

技術&情報

- 子牛の寒冷対策～栄養を充足させて、すくすく育てる！

宗谷農業改良普及センターだより 通巻42号（令和4年12月1日） ■バックナンバー 宗谷普及センターホームページ <https://www.souya.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/a0005/>

アグリチャンネル

支所発

DATE:2022年10月22,23日
『第39回農村生活文化伝承展開催』

豊富町の女性グループ「農村生活文化伝承活動をすすめる会」（長尾きよ子会長、会員14名）では、農村生活文化伝承展を開催しました。

手作りの加工食品や手芸品、地場産野菜等の展示販売を例年行っており、キムチ、中華、酢みそ和えの三種に味付けされたイタドリの調理品等が人気で、本年も会場は賑わいました。



地場産野菜販売の様子



手作り品販売の様子

広域発

DATE:2022年10月14,18日
『ルーキーズ☆カレッジ第5期開講』

ルーキーズ☆カレッジは宗谷酪農の基礎を学ぶことができる講座です。2年間で座学や現地研修、指導農業士との意見交換など多彩なカリキュラムを計画しています。10月に開催した第1回目は、南会場（於:JA東宗谷）と北会場（於:JA北宗谷）の2会場で、草地管理などの講座を行いました。受講生からは「しっかり学んで今後の酪農経営に活かしたい」など抱負が語られました。



受講生と講師の太田主任普及指導員(10/14,南会場)



自己紹介する受講生(10/18,北会場)

そやのグループ・組織

The Group of SOYA

さるふつ村楽農塾は、宗谷4Hクラブ連絡協議会に加盟する青年グループです。

猿払村の酪農経営者や後継者、酪農従業員、ヘルパー利用組合職員など酪農に関わる多様な立場の青年で構成され、研鑽と交流を行っております。

メンバーの農場でバーンミーティングを行い飼養管理に関する意見交換を行ったり、獣医師や酪農コンサルタントを招き定期的に勉強会を行っております。

また、今年から放牧を始めるメンバーの手伝いを行うなど協力し合いながら活動を行っております。

ヘルパー利用組合職員のメンバーには、さるふつ村楽農塾で研鑽を積んで就農を目指す人もおります。

今年は、宗谷4Hクラブ連絡協議会の交流会「SOYA ヤングフォーラム」をさるふつ村楽農塾が中心となり村内の楽遊館で開催されました。宗谷管内の4Hクラブに所属する27名の青年が集まり、牛乳早飲み大会や焼き肉を食べながら意見交換を行い、宗谷の他の地域の青年と交流を深めました。

今後もさるふつ村楽農塾は、メンバーで協力し合い、猿払村や宗谷の酪農発展に貢献していくことでしょう。

さるふつ村楽農塾



放牧地の状況について意見交換



SOYAヤングフォーラム 牛乳早飲み

今号の表紙

チーズづくり体験会（豊富町）

酪農実習で当町に滞在中の農業系大学の学生8名がモッツアレラチーズづくりを体験。町内の酪農家、本間美嘉さんと長尾きよ子さんが体験会の講師を務めました。ご当地牛乳を使ったものづくりは学生にとって貴重な経験となりました。

おしらせ

ホームページもご覧下さい！
ホームページでは地域の話や技術情報などを掲載しています。
【検索】宗谷農業改良普及センター
右のQRコードからも閲覧できます。



活動紹介

本所地域係

細切サイレージの品質改善

猿払村・浜頓別町 5TMRセンター

普及センターでは、令和2年度から猿払村・浜頓別町の5つのTMRセンター協力のもと、1番草サイレージの踏圧状況や品質を確認し、結果を5センター間で共有してきました。令和3年度からは、宗谷管内のすべてのTMRセンター等が加入する宗谷TMRセンター連絡会の研修会でも結果を報告し、広く情報を発信しています。

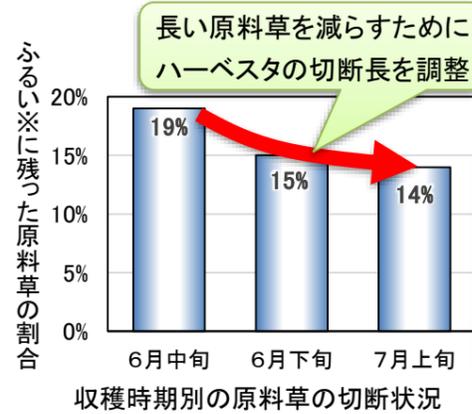
令和4年度は、サイレージ乾物密度を高め、さらに牛の乾物摂取量を高めることを目的に、収穫期間の後半の切断長の適正化に取り組みました。

具体的には、NDFの消化率が低下すると考えられる収穫後半、原料草の長さを相対的に短くするために、ハーベスタの切断長の調整を提案しました。原料草の長さは、ハーベスタの設定が同じでも草種や収量、水分等によって変動するため、サイロに搬入された原料草をふるいでふるって切断状況を確認しながら調整していきました。

サイロ開封以降、改善の効果の有無を把握し、協力いただいた5センターだけでなく、地域の良質サイレージ生産に繋がりたいと考えています。



令和3年収穫調製の状況を説明



技術情報

子牛の寒冷対策

～栄養を充足させて、すくすく育てる！～



子牛は寒さに弱いため、環境温度が15℃を下回ると、生命維持のために必要なエネルギー量が増加します(表1)。そのため、寒冷期に子牛を健やかに育てるには、①寒さを防ぐ環境整備(衣・住)を行い、②摂取エネルギーを増やす(食)ことが必要です(図1)。

表1 環境温度と子牛の維持エネルギー要求量(NRC2001より)

温度(℃)	維持エネルギー要求量 (Kcal ME/日)		温度変化に伴う増加量 (%)	
	出生～3週齢	3週齢以降	出生～3週齢	3週齢以降
20	1,735	1,735	0	0
15	1,969	1,735	13	0
10	2,203	1,735	27	0
5	2,437	1,969	40	13
0	2,671	2,203	54	27
-5	2,905	2,437	67	40
-10	3,139	2,671	81	54
-15	3,373	2,905	94	67
-20	3,607	3,139	108	81
-25	3,843	3,373	121	94
-30	4,066	3,607	134	108

衣

- ・ネックウォーマー
- ・カーフジャケット
- 等

食

- ・ミルク
- ・スターター
- 等

住

- ・赤外線ヒーター
- ・十分な敷料
- ・隙間風防止
- 等

図1 子牛の発育のためには、複数の寒冷対策が必要

ほ乳量を増やして、エネルギーを充実!

過去に実施した「寒冷期における子牛の飼養状況と増体の調査」(対象:宗谷管内6農場)では、寒冷期に発育目標とされる「2ヶ月齢の体重が出生時体重の2倍」に達していない農場があり、要因の一つとして摂取エネルギーの不足が考えられました。

調査農場のひとつA農場では冬期間、脂肪分の高い代用乳(粗脂肪25%)に変更し、1日4ℓを給与していました。しかし、2ヶ月齢の体重(寒冷期)が出生時の1.7倍とやや少なく、エネルギーが不足していると思われました(図2)。

改善策として、ほ乳量を1日6ℓに増やすことで、エネルギーが充足され、寒冷期でも順調な増体が期待できます(図2)。このことから、ほ乳量を増やすことが有効な寒冷対策となる農場もあることがわかります。

長く、厳しい冬の季節となりました。元気な子牛を育てるためにほ乳量を見直してみませんか?

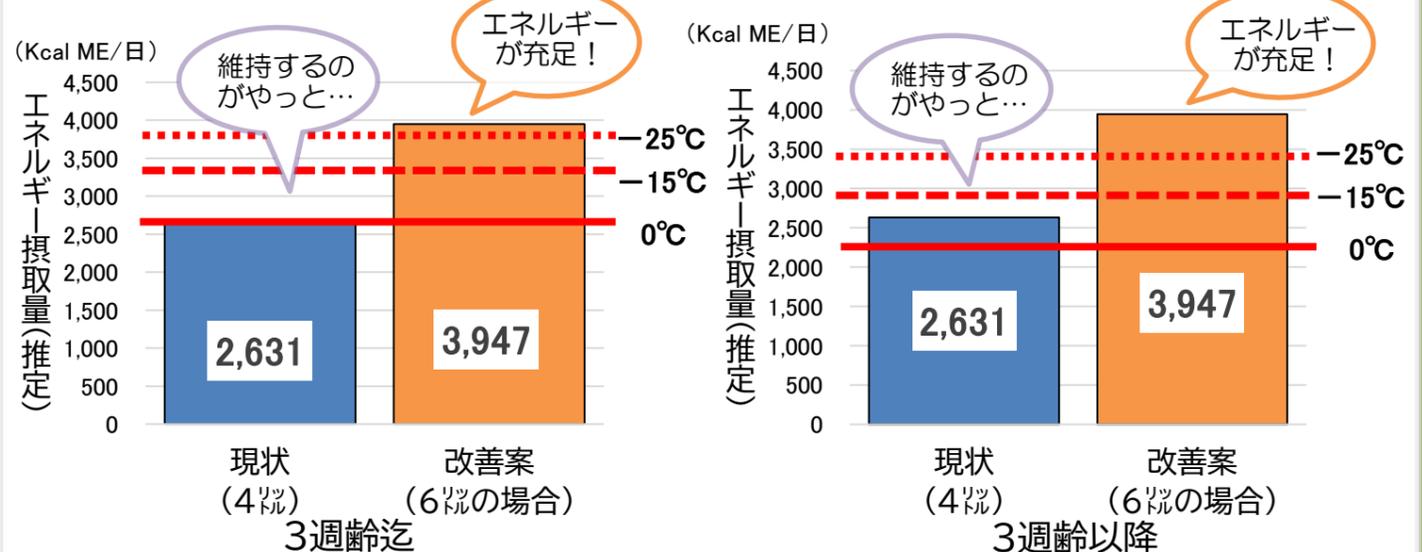


図2 A農場における代用乳4ℓ給与の場合(現状)と6ℓ給与にした場合の代用乳からのエネルギー摂取量(推定)

注意: ・ほ乳量を増やす場合は急激な増量を避け、子牛をよく観察しながら行いましょう。
・代用乳の濃度は、代用乳の袋に記載された推奨濃度を守りましょう。

HPでは、ほ育牛の各種寒冷対策をご紹介します。



活動紹介

北部支所地域係

施設整備による飼養環境の改善

豊富町 目梨別地域

普及センター宗谷北部支所では令和3年度から豊富町目梨別地域の農場を対象に生産性や所得の向上につながる支援を実施しています。

今回は、施設の低コスト改修による給与飼料ロスの低減と軽労化の支援についてご紹介します。

A農場では、既存の飼槽壁高さが約5cmであったため、搾乳牛が給与飼料を牛床側に引き込み給与ロスが発生していました。このことから、飼槽壁の取付を農場に提案、実施しました。

①設置対象牛:給与飼料を牛床に引き込むクセの強い搾乳牛5頭、②材料:廃プラスチックを原料と

したパネルとUボルト、③施工方法:既存飼槽壁上部のパイプにUボルトで固定、④改善点:飼槽壁高さを最大12cmアップ、⑤材料費:1,920円/頭といった条件で施工を行いました。

結果、現物量で最大約4.8kg/日/頭あった飼料の引き込みが少なくなり、給餌作業が楽になったと農場から好評価を得られました。

今後も地域の皆様とともに、飼養管理の改善及び粗飼料栽培技術の向上等の支援を通じ、生産性並びに所得の向上を目指します。



設置作業



設置後

- 材料費 ⇒1,920円/頭
 - 飼槽壁高さ(5⇒17cm) ⇒最大12cmアップ
 - 牛床への残飼引き込み (例)4.8kg/頭/日⇒ほぼ解消
- 給与ロス減少により、給与量増 ⇒ 採食量がアップ!**